

平成 27 年度

熊本市こころの健康センター所報

熊本市こころの健康センター

はじめに

28 年 4 月の熊本地震では、全国からご支援をいただき、この場を借りまして御礼申し上げます。

震災直後に比べますと、少しずつ落ち着きはとり戻したものの、特に生活再建が思うようにいかなかった方々に懸念されるメンタルヘルスの課題について、関係機関と連携しながら現在取り組んでいるところでございます。今回、「平成 27 年度所報」を報告いたします。作成につきまして、遅くなりましたこととお詫び申し上げます。

熊本市こころの健康センターは、平成 24 年 4 月、熊本市の政令市移行に伴い設置され、まもなく 5 年を迎えようとしています。

自殺対策におきましては、平成 24 年に熊本大学医学部神経精神科、県精神科病院協会のご尽力により救急医療機関が中心となりまして「熊本救急医療自傷・自殺問題対策協議会」が設立されており、行政・警察・消防機関等との連携、又、更なる県精神科病院協会のご協力によります「救急医療の確保、精神科救急情報センター」、熊本県精神保健福祉協会の「こころの電話」、「熊本いのちの電話」等の総合的な体制の中で、当センターは事業を進めることができております。このことにつきまして、この場を借りまして感謝申し上げます。震災後 8 ヶ月を迎え復興の格差からリスクが懸念されているところでございます。当センターは、引き続き、自殺予防週間における電話相談、包括相談会、ゲートキーパー養成研修、自死遺族グループミーティング、講演会等をおこなってまいります。

依存症の対策におきましては、関係医療機関、保護観察所、保護司会、警察、当事者の自助グループ、県精神保健福祉センター等との連携のもとに、当センターでは、相談業務、技術支援、当事者グループミーティングと家族教室、市民への講演会等を行っているところでございます。

ひきこもり支援センター（委託）につきましても、平成 26 年 10 月に設置後、相談窓口が明確になりましたこと等で、27 年度は 25 年度と比べ、相談件数は 4.3 倍となり、専属の職員による対応が可能となり、ひきこもり状況の改善も見られているところでございます。

精神障害者の社会復帰支援事業におきましては、認知機能リハビリテーションと就労準備を合わせた「就労準備デイ・ケア」を開所当事から実施しており、認知機能を改善できたことで、27 年度までには終了者の約 6 割が A 型就労も含めて就労されております。又、当初から実施しておりますピアサポーター養成講座では、平成 27 年度 21 名のピアサポーターが登録されております。

今後も震災後の復興に向けて懸念されるメンタルヘルス等の課題について、県心のケアセンターを始め多くの関係機関と連携し、対応に努力してまいりたいと思います。

平成 28 年 12 月

熊本市こころの健康センター所長 小仲 靖江

目次

I こころの健康センターの概要

1 沿革	1
2 業務概要	1
3 施設概要	1
4 組織	2
5 歳入及び歳出決算状況	2

II こころの健康センター業務実績

1 企画・立案	3
2 精神保健福祉相談	
(1) こころの健康相談	4
(2) 医師の診断による分類	7
3 人材育成・教育研修	8
(1) 精神保健福祉担当者研修会	9
(2) 思春期精神保健福祉研修会	9
(3) 依存症研修会・講演会	10
(4) ゲートキーパー養成講座	10
(5) 自殺予防研修会	11
(6) 精神障がい者就労支援ネットワーク連絡会	11
(7) 高齢者自殺予防研修会	11
(8) 認知行動療法（自殺予防）研修会	12
(9) 電話対応スキルアップ研修会	12
4 普及啓発	13
(1) 依存症家族教室	14
(2) 依存症講演会	14
(3) 依存症当事者グループミーティング	14
(4) WRAP（元気回復行動プラン）集中クラス	15
(5) 自死遺族グループミーティング	15
(6) 精神保健福祉ボランティア養成講座	15
(7) ピアサポート講座	16
(8) ピアサポート講演会	17
(9) 精神障がい者就労支援講演会	18
(10) 図書・ビデオ・DVD 貸し出し	18
(11) パンフレット等の普及啓発資料の作成・配布	18
(12) こころのスキルアップ研修会	18

5	組織育成	19
6	関係機関への技術支援	21
7	自殺・うつ病対策	
(1)	くらしとこころの悩みの相談会	23
(2)	若者のくらしとこころの悩みの相談会	23
(3)	自死遺族グループミーティング（再掲）	24
(4)	ゲートキーパー養成講座（再掲）	24
(5)	自殺予防研修会（再掲）	25
(6)	高齢者自殺予防研修会（再掲）	25
(7)	認知行動療法（自殺予防）研修会（再掲）	25
(8)	電話対応スキルアップ研修会（再掲）	25
(9)	こころのスキルアップ研修会（再掲）	25
8	精神障がい者の社会復帰支援	
(1)	就労準備デイ・ケア	26
	認知機能検査結果	
(2)	デイ・ケア修了生の集い・就労ミーティング	29
(3)	精神障がい者就労支援講演会（再掲）	29
(4)	精神障がい者就労支援ネットワーク連絡会（再掲）	29
(5)	ピアサポート相談	30
9	ひきこもり対策推進事業	32
10	調査研究	39
11	自立支援医療費（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳の判定	42
12	精神医療審査会の審査に関する事務	44

I 熊本市こころの健康センターの概要

熊本市こころの健康センターは、精神保健及び精神障害者の福祉に関する法律第6条第1項に規定される精神保健福祉センターとして設置されている。

1 沿革

平成24年	4月	1日	熊本市が政令指定都市に移行 熊本市こころの健康センター開設
平成24年	5月	1日	熊本市こころの健康センター診療所認可
平成24年	10月	2日	就労準備デイ・ケア（精神科ショート・ケア） 開始
平成26年	10月	1日	熊本市ひきこもり支援センター「りんく」設置 （業務委託開始）

2 業務概要

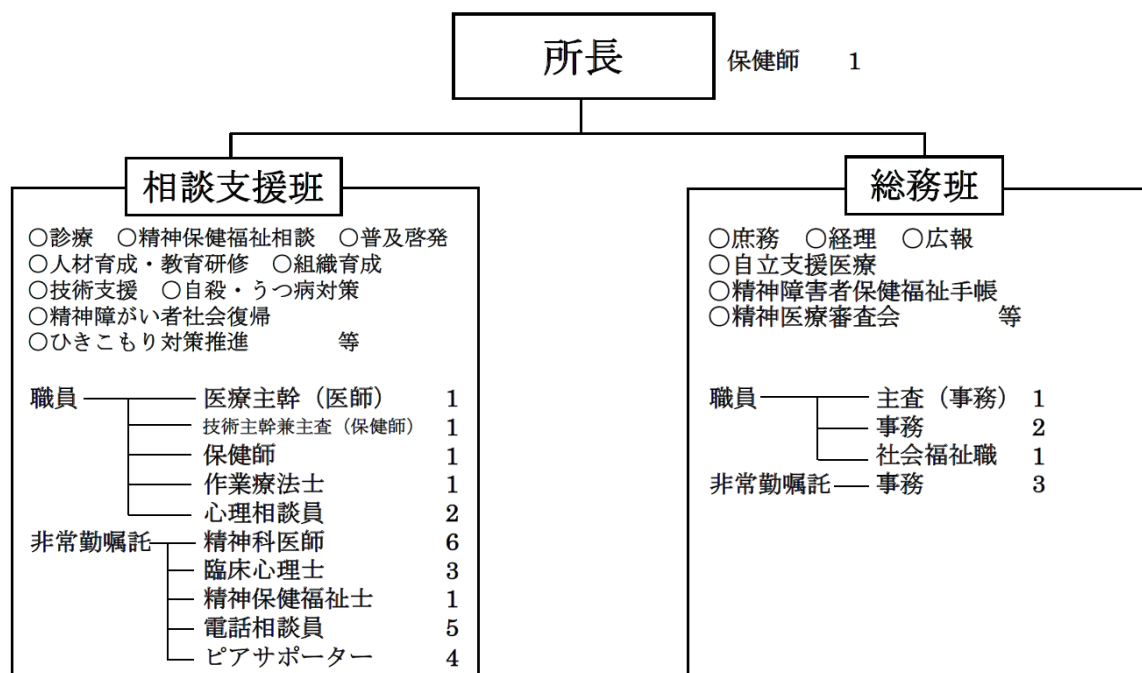
熊本市こころの健康センターでは、以下の業務を行っている。

- (1) 企画・立案
- (2) 精神保健福祉相談及び診療
- (3) 人材育成・教育研修
- (4) 普及啓発
- (5) 組織育成
- (6) 関係機関への技術支援
- (7) 自殺・うつ病対策
- (8) 精神障がい者の社会復帰支援
- (9) ひきこもり対策推進事業
- (10) 調査研究
- (11) 自立支援医療費（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳の判定
- (12) 精神医療審査会の審査に関する事務

3 施設概要

所在地	〒862-0971 熊本市中央区大江5丁目1番1号 熊本市総合保健福祉センター（ウェルパルクまもと）3階
面積	585.09 m ²
電話番号	代表番号 096-366-1171 FAX 096-366-1173 こころの健康相談 096-362-8100 熊本市精神医療審査会 096-366-1222

4 組織 （平成 28 年 3 月現在）
熊本市こころの健康センター組織図



5 歳入及び歳出

(1) 歳入	12,775,464 円
国庫補助金	10,306,542 円
使用料	2,465,722 円
手数料	3,200 円

(2) 歳出	49,761,586 円
--------	--------------

款) 衛生費 項) 保健衛生費 目) 精神保健福祉費
(節別内訳)

節	金額	節	金額
報酬	19,355,118 円	医薬材料費	7,581 円
共済費	1,233,590 円	役務費	6,568,281 円
報償費	1,078,500 円	委託料	17,645,315 円
普通旅費	1,013,770 円	使用料	158,247 円
特別旅費	319,290 円	備品購入費	34,560 円
一般需用費	2,071,863 円	負担金補助	189,500 円
食糧費	25,300 円	補償補填	0 円
燃料光熱水費	36,071 円	公課費	24,600 円

Ⅱ 熊本市こころの健康センター業務実績

1 企画・立案

地域精神保健福祉を推進するため、精神保健福祉の専門的な立場から、関係機関及び熊本市の精神保健福祉関係部署に対し、精神保健福祉に関する提案、意見具申等を行っている。

(1) 熊本市精神保健福祉審議会（行政関係職員として所長が参加）

精神保健福祉に関する事項を調査審議する。

精神保健及び精神障がい者の福祉に関する本市の取り組みについての意見や法第 19 条の 9 第 2 項規定による指定病院の指定の取り消しの際の意見を聴取する。

期日	協議内容	参加委員数
H28.2.29	○精神疾患者の現状等について ○事業の実施状況等について ○長期入院精神障がい者の地域移行に関する意向調査結果について ○新たな取り組み等について	13 人

(2) 熊本県自殺対策連絡協議会

熊本県における自殺者数の減少を図るため、県内の関係機関・団体が連携し、自殺対策を総合的に推進することを目的として、熊本県が設置しているものであり、医療・保健・福祉関係委員として参加している。

期日	協議内容
H28.3.10	○平成 27 年中の自殺の概要について ○熊本県自殺対策行動計画の取り組み状況について ○自殺対策強化月間（3 月）の取り組みについて ○熊本県自殺対策行動計画の見直しについて ○その他

(3) 熊本市自殺対策連絡協議会（行政関係として当センターから複数名参加）

熊本市における自殺者数の減少を図るため、市内の関係機関・団体が連携し、自殺対策を総合的に推進することを目的とする。

期日	協議内容
H27.11.16	○自殺対策白書について ○自殺者の現状について ○熊本市の取り組みについて ○各関係機関の取り組みについて 等

2 精神保健福祉相談（こころの健康相談）及び診療

当センターでは、区役所及びその他関係機関の複雑困難事例、医療機関及び相談機関等につながっていない困難事例等の相談対応を実施している。また、これら以外の相談事例についても、必要に応じて対応している。

相談体制は来所相談と電話相談で対応しているが、来所相談は事前予約を要するとしている。また、来所が困難である事例等は、必要に応じて訪問を行っている。来所相談はセンター職員及び非常勤職員で対応し、電話相談は2名の電話相談専属の非常勤職員で対応している。電話相談については、専用回線を設置し、平日の9:00～16:00で、こころの悩み等の幅広い相談に対応している。

また、当センターでは、診療所としての許認可を受けて、通常の医療機関につながっていない困難事例等について診療を行っている。原則として継続診療とはせず、適切な医療機関を紹介している。

（診療の体制は、原則として予約制で、精神科医師8名により対応している。）

（1）こころの健康相談（全体）

1）相談件数（実人数）

	来所相談		電話相談		訪問	
	延件数	実人数	延件数	新規	延件数	実人数
老人精神保健	37	21	48	32	16	9
社会復帰	346	71	346	20	61	21
アルコール	36	21	83	49	0	0
薬物	18	13	32	18	2	2
ギャンブル	25	21	89	48	0	0
思春期	31	22	113	53	0	0
心の健康づくり	256	158	1355	729	30	6
うつ・うつ状態	53	27	121	66	0	0
摂食障害	5	5	9	5	0	0
てんかん	0	0	3	2	0	0
その他	173	69	4477	511	10	7
計	980	428	6676	1533	119	45

（相談延件数の再掲分件数）

	来所相談		電話相談		訪問	
	延件数	実人数	延件数	新規	延件数	実人数
ひきこもり	93	26	35	14	14	2
発達障害	108	38	144	25	4	3
自殺関連	25	13	126	26	15	3
自殺者の遺族（再掲）	5	3	12	6	14	2

犯罪被害	0	0	1	1	0	0
災害	1	0	0	0	0	0

2) 男女別件数

	来所相談			電話相談			訪問		
	実人数 (H27 新規)	継続	延件数	新規	継続	延件数	実人数 (H27 新規)	継続	延件数
男	207(156)	275	482	666	1868	2534	18(9)	31	49
女	218(172)	277	495	852	3268	4120	27(14)	43	70
不詳	3(2)		3	15	7	22			
計	428(330)	552	980	1533	5143	6676	45 (23)	74	119

(2) 平成 27 年度の新規相談受付者の状況

1) 来所相談

(ア) 年齢別

	6 ～12	13～ 15	16～ 19	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70～ 79	80～	不詳	計
男	1	7	8	25	35	35	16	18	6	3	2	156
女	0	4	10	32	43	30	13	19	7	4	10	172
不詳											2	2
計	1	11	18	57	78	65	29	37	13	7	14	330

(イ) 相談者内訳

	本人	本人以外								計
		父	母	配偶者	子	兄弟姉妹	祖父母	親戚	その他	
男	91	10	26	15	5	7	1		1	156
女	122	6	20	8	4	7	1		4	172
不詳		1							1	2
計	213	17	46	23	9	14	2		6	330

(ウ) 主たる相談内容内訳

	A精神疾患・障害の相談	B依存・食行動の問題	C思春期相談	D家族関係の問題	E対人関係の問題	F心の健康の問題	G福祉・社会復帰等の問題	Zその他	計
男	41	37	7	12	9	20	29	1	156
女	49	16	3	28	7	46	22	1	172
不詳	1						1		2
計	91	53	10	40	16	66	52	2	330

(エ) 受付経路

	関係機関紹介	市 政 だより	チラシ・パン フレット	インター ネット	知人の 紹 介	知って いた	その他	不詳	計
男	66	14	2	25	12	15	14	8	156
女	79	12	6	20	15	24	8	8	172
不詳								2	2
計	145	26	8	45	27	39	22	18	330

(関係機関紹介の再掲分件数)

	保健所	区役所	福 祉 事務所	医 療 施 設	介護老 人保健 施 設	障害者 支 援 施 設	社会福 祉施設	教育関 係機関	その 他	計
男	3	8	2	22		3		1	27	66
女	1	10	3	21	2			7	35	79
計	4	18	5	43	2	3		8	62	145

2) 電話相談

(ア) 年齢別

	0～ 5	6～ 12	13～ 15	16～ 19	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70～ 79	80～	不詳	計
男	1	10	10	33	108	121	136	76	51	24	10	86	666
女	2	5	23	34	124	166	163	99	66	32	20	118	852
不詳		1			1							13	15
計	3	16	33	67	233	287	299	175	117	56	30	217	1533

(イ) 相談者内訳

	本人	本 人 以 外								計
		父	母	配偶者	子	兄弟姉妹	祖父母	親戚	その他	
男	364	28	118	56	24	24	9	9	34	666
女	563	17	126	29	25	23	6	9	54	852
不詳	4		2						9	15
計	931	45	246	85	49	47	15	18	97	1533

(ウ) 主たる相談内容内訳

	A精神 疾患・障 害の相談	B依存・ 食行動の 問題	C思春 期相談	D家族 関係の 問題	E対人 関係の 問題	F心の 健康の 問題	G福祉・ 社会復帰 等の問題	Zその他	計
男	203	100	21	66	34	177	62	3	666
女	290	37	16	128	48	272	53	8	852
不詳	4	1				5	4	1	15
計	497	138	37	194	82	454	119	12	1533

(エ) 受付経路

	関係機関紹介	市 政 だより	チラシ・パン フレット	インターネ ット	知人の 紹 介	知っていた	その他	不詳	計
男	247	32	47	170	24	15	73	58	666
女	283	57	70	200	47	22	98	75	852
不詳	4			1				10	15
計	534	89	117	371	71	37	171	143	1533

(関係機関紹介の再掲分件数)

	保健所	区役所	福 祉 事務所	医 療 施 設	介護老 人保健 施 設	障害者 支 援 施 設	社会福 祉施設	教育関 係機関	その 他	計
男	11	29		118	3	5	1	2	78	247
女	12	38	3	140		4	1	1	84	283
不詳		2		1					1	4
計	23	69	3	259	3	9	2	3	163	534

(2) 医師の診断による分類 (診療のみ)

Fコード	診断分類	実人数	延件数
F0	病状性を含む器質性精神障害	5	14
F1	精神作用物質による精神および行動の障害	3	3
F2	統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害	30	472
F3	気分（感情）障害	11	94
F4	神経症性障害、ストレス関連および身体表現性障害	3	82
F5	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	0	0
F6	成人の人格および行動の障害	2	2
F7	精神遅滞	0	0
F8	心理的発達障害	4	5
F9	小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害、特定不能の精神障害	0	0
その他	その他	0	0
計		58	672

3 人材育成・教育研修

当センターでは、地域の精神保健福祉活動の推進のために、研修会及び講演会を開催している。精神保健福祉に携わる職員等に対し専門的知識及び技術の習得を目的とし、様々な目的に応じて参加できるように企画している。

	研修会等	
	件数	参加延人数
老人精神保健		
社会復帰	2	17
アルコール	1	128
薬物		
思春期	4	218
心の健康づくり		
ひきこもり		
自殺関連	5	249
犯罪被害		
その他	3	225
計	16	968

	参加延人数（所属別）
保健所	18
区役所	169
福祉事務所	4
医療機関	192
介護老人保健施設	37
障害者支援施設	59
社会福祉施設	0
教育関係機関	180
その他	309
計	968

（１）精神保健福祉担当者研修会

精神保健福祉業務に従事する保健所及び区役所職員等が、必要な専門的知識及び技術を習得することで、地域精神保健福祉活動の推進を図ることを目的に実施している。

期日	内容	講師	参加人数
H27.5.15	○精神保健福祉法の改正及び措置入院等の業務について ○最近の精神保健福祉の動向 ○精神疾患の理解と対応 ○障害者総合支援法と障害福祉サービスについて ○こころの健康センター業務について ○ピアサポーター活動紹介及び体験談 ○相談面接の基礎 ○情報交換会	熊本市職員 （精神保健福祉室職員、区役所福祉課職員、こころの健康センター職員）	41 人

（２）思春期精神保健福祉研修会

教育関係者及び精神保健福祉業務に従事する者が、思春期における「発達障がい」や「自殺予防」等の課題への理解を深め、地域精神保健福祉活動の推進を図ることを目的に実施している。

期日	内容	講師	参加人数
H27.8.5	講話「最近の精神科医療で出会う子ども達」 講話「発達障害への向き合い方と支援者の役割―当事者はどのように悩み、どこで躓くのか―」 体験談「発達障がいの当事者の立場から」	向陽台病院理事長 メンタルクリニック保田窪 院長 横田 周三 氏 はっとり心療クリニック 院長 服部 陵子 氏 熊本市こころの健康センター ピアサポーター	202 人

期日	内容	講師	参加人数
H27.5.16	児童精神症例検討会	はっとり心療クリニック 院長 服部 陵子 氏	4 人
H27.9.5	児童精神症例検討会		6 人
H28.2.13	児童精神症例検討会		6 人

(3) 依存症研修会・講演会

精神保健福祉業務に従事する者が、依存症についての必要な専門的知識及び技術を習得することで、依存症への適切な対応の充実を図ることを目的に実施している。

期日	内容	講師	参加人数
H28.2.12	講話 第1部「アディクションの理解と支援」 第2部「アディクションの家族関係に対する支援」	筑波大学 医学医療系 社会精神保健学 森田 展彰 氏	128 人

(4) ゲートキーパー養成講座

自殺を防ぐために、地域支援者等が自殺危機介入スキルの習得することを目的とした講座等を実施している。

期日	内容	講師	参加人数
H27.12.7, 12.8	自殺を考える人、自殺を計画する人のサインを見逃さず、危険性をはかり、安全計画をたてた上で、専門家等へつなぐ一連の対応について、実際の場面でのスキルを身につけるためのロールプレイ型実践研修	熊本市こころの健康センター 職員	45 人

期日	内容	講師	参加人数
H27.8.18	熊本大学医学部看護学科学生実習にて、ゲートキーパーについて講話・リーフレットについて	熊本市こころの健康センター 職員	12 人
H27.9.3	保護観察所職員向けに、自殺対策事業説明・ゲートキーパーについて説明	熊本市こころの健康センター 職員	1 人
H27.10.5	医師臨床研修にて、医師向けにゲートキーパーについての講話・相談機関の紹介	熊本市こころの健康センター 職員	1 人
H27.11.9	平成 27 年度熊本県自殺対策関係団体（熊本県理容生活衛生同業組合）向けにゲートキーパーについての講話	熊本市こころの健康センター 職員	33 人
H28.1.22	子ども支援課主催「第 2 回妊娠に関する悩み相談員研修会」にて電話相談員向けにゲートキーパー、自殺関連電話対応について講話	熊本市こころの健康センター 職員	9 人

H28.2.26	平成 27 年度第 5 回南 3 居宅包括連絡会 にて相談員向けにストレスマネジメン ト、ゲートキーパーについて講話	熊本市こころの健康センター 職員	28 人
----------	--	---------------------	------

（５）自殺予防研修会

教育関係者、医療機関、相談支援事業所、熊本市保健福祉関係者、精神保健福祉に関する業務従事者等を対象に、青少年の自殺予防に焦点を当てた研修を実施。青少年の自殺の実態や自傷行為の理解やその対応についてや自殺予防教育の実践を学ぶことにより、青少年の自殺予防対策の推進を図る。

期日	内容	講師	参加人数
H27.8.3	午前 講話「教員が知っておきたい子どもの 自殺予防～自傷行為・自殺に関する理 解と対応～」 講話「自殺予防教育の実践的な取り組 みについて」 午後 ワークショップ	国立病院機構熊本医療センター 橋本 聡 氏 四天王寺学園小学校 阪中 順子 氏 四天王寺学園小学校 阪中 順子 氏	実 116 人 (午前 114 名 午後 45 名)

（６）精神障がい者就労支援ネットワーク連絡会

当センターで実施する精神障がい者の就労支援に係る事業の推進を図り、また、関係機関との連携による精神障がい者の就労支援の促進を図ることを目的として実施している。

期日	内容	委員
H27.7.8	○こころの健康センター就労準備デイ・ケア報告 ○意見交換	9 人
H28.3.9	○認知機能リハビリテーション報告 ○意見交換	8 人

（７）高齢者自殺予防研修会

高齢者の自殺率が高い現状があり、高齢者の精神保健福祉に携わる職員のスキルアップを目的として、認知症及び高齢者の抑うつについて学ぶ機会を提供する。

期日	内容	講師	参加人数
H27.10.30	講話 「認知症疾患とその対応について」	熊本市こころの健康センター 医師	43 人
	「高齢者の抑うつについて」	熊本大学医学部附属病院 神経精神科 藤瀬 昇 氏	

（８）認知行動療法（自殺予防）研修会

精神保健福祉活動に従事する支援者が認知行動療法を学ぶことにより、うつ病等の相談支援の充実を図ることを目的として実施している。

期日	内容	講師	参加人数
H27.9.25	講話「日常業務にいかす認知行動療法～認知行動療法をベースにした面接の実際」	一般社団法人 認知行動療法研修開発センター 理事長 大野 裕 氏	131 人

（９）電話対応スキルアップ研修会

市民からの相談を受ける市職員を対象に電話相談に対応する上で必要なスキルを身につける機会を提供する。

期日	内容	講師	参加人数
H27.6.17	講話及び演習	カウンセリングオフィス・KMJ メンタルアシスト代表 松下 弘子 氏 熊本市こころの健康センター 医師	45 人

4 普及啓発

当センターでは、精神保健福祉に関する知識、精神障がいについての正しい知識、精神障がい者の権利擁護等について、普及啓発を行っている。

	普及啓発	
	件数	参加人数
老人精神保健		
社会復帰	38	468
アルコール・薬物	48	334
思春期		
心の健康づくり	5	220
ひきこもり		
自殺関連	8	54
犯罪被害		
その他		
計	99	1076

(再掲)

	件数	参加人数
地域住民への講演、交流会	4	449
薬物関連問題の再掲	1	47
精神障害者（家族等）に対する教室等	91	763
薬物関連問題の再掲	47	287
精神ボランティア育成	4	50

（１）依存症家族教室

アルコールや薬物・ギャンブルなどの依存症に伴う問題に対応するために、家族が学びあい、共感と癒しを得る機会を提供する。

期日	回数	内容	参加人数
毎月第1火曜日 18:30～20:30 毎月第3火曜日 13:30～15:30	22回	「依存症」についての講話、回復者からの体験談、家族の学習会、コミュニケーションについてなど	延 203 人

（２）依存症講演会（こころの健康づくり講演会・家族教室）

依存症で悩む家族が家族関係について正しい知識を習得し、問題行動への対応を学ぶための機会として実施している。また、広く市民を対象とし、「心の健康づくり」として依存症に関わる啓発を行っている。

期日	内容	講師	参加人数
H27.10.25	講演 「依存症の理解と回復への支援 ～アルコール依存症、 薬物依存症・ギャンブル依存症～」	京都府立大学 公共政策学 部 福祉社会学科 准教授 山野 尚美 氏	47 人
	家族教室 「依存症の家族にできること ・できないこと」	同上	25 人

（３）依存症当事者グループミーティング

依存症当事者を対象とし、依存症の回復プログラムを用いて、やめたくても自分でコントロールできない様々な行動を変えていくことを目的としたグループミーティングを行っている。

期日	回数	内容	講師	参加人数
毎月 第1・3金曜日 14:00～16:00	24回	12 ステップを用いたグループミーティング	熊本ダルク 施設長 田邊 忠司 氏	延 59 人

(4) WRAP(元気回復行動プラン)集中クラス

日常生活で苦勞や困難に直面した際に WRAP（元気回復行動プラン）を利用して、元気を回復する、または元気を保つための方法を学ぶ機会を提供することを目的として実施している。

期日	内容	講師	参加人数
H27.9.16～ 9.17	WRAP(元気回復行動プラン)	WRAP ファシリテーター 3名	実 13 人 延 26 人

(5) 自死遺族グループミーティング

大切な人を自死（自殺）で亡くした者が悩みや苦しみを話せる機会を提供することを目的として実施している。

期日	回数	内容	参加人数
偶数月 第3木曜日 14:00～16:00	6回	フリートーク及び相談	実 11 人 延 12 人

(6) 精神保健福祉ボランティア養成講座

精神障がいへの正しい理解の普及を図り、精神障がいがあっても地域の人々とともに生活できるよう、精神障がい者を地域で支えるボランティアの育成を目的として、ボランティア養成講座及び修了生の集いを開催している。

期日	内容	講師	参加人数
H27.10.7～ 10.21 全4回	①講話「熊本市の精神保健福祉について」 「ボランティア活動のスタートにあたって」 ②講話「精神障がいの理解と対応」 講話「話の聴き方」 ③精神障がい者スポレク大会「ふれあいピック」参加 ④講話「精神障がい者が地域生活を継続するために」 講話「障がい者とともに生きる地域づくり～当事者の声を聴こう～」	熊本市障がい保健福祉課 精神保健福祉室 職員 熊本市こころの健康センター 保健師 熊本市こころの健康センター 医師 熊本市こころの健康センター 心理相談員 熊本きぼう生活支援センター 楠 達雅 氏 熊本市こころの健康センター ピアサポーター	実 19 人 延 50 人

(7) ピアサポート講座

精神障がい者が、その経験を生かし、理解と共感を持って仲間をサポートしていきけるように知識や情報を知る機会を提供することを目的に実施している。また、講座修了者等を対象にピアサポートスキルの向上やさらなる知識の習得に向けたフォロー研修の機会を提供している。

期日	内容	講師	参加人数
H27.7.24	第1回 ●「リカバリーについて」 ●「ピアサポートを知ろう！」 ●グループワーク	第1回 熊本市こころの健康センター 職員	第1回 16人
H27.7.31	第2回 ●熊本市におけるピアサポート～実践報告とピアへの思い～ ①「こころの健康センターにおいてのピアサポート活動」 ②「医療法人横田会でのピアサポーター雇用について」 ③「ピアサポートくまもとにおける支援活動とその感想」 ●「精神障がい者地域移行・地域定着支援でのピアサポーターの役割」 ●グループワーク	第2回 ①熊本市こころの健康センター社会復帰支援ピアサポーター2名 ②地域生活支援センターなでしこ 相談支援専門員 川村 歩美 氏 ③ピアサポートくまもとピアサポーター2名 熊本市障がい保健福祉課 精神保健福祉室職員	第2回 17人
H27.8.7	第3回 ●精神障がいピアサポート講演会 講演「これからのピアサポート～ピアスタッフとして働いて～」 講演「専門職の立場からピアサポートを考える」	第3回 一般社団法人日本メンタルヘルスパイサポート専門員 研修機構 (代表理事) 内布 智之 氏 (研修企画委員) 武田 牧子 氏	第3回 83人
H27.8.10	第4回 ●「リカバリーの道～私の体験談とピアサポート～」 ●「ピアサポートで大切にしたいこと」 ●グループワーク	第4回 ピア2名 熊本市こころの健康センター 職員	第4回 15人

ピアサポートの集い（フォロー研修）

期日	内容	講師	参加人数
H27.6.1	第1回 ●「リカバリーへの道のり～それぞれの想いを語る～」 ○リカバリーについて ○ストレングスについて ○リカバリーストーリーについて	第1回 熊本市こころの健康センター 社会復帰支援ピアサポーター 4名	15人
H27.11.6	第2回 ●「いいところさがしで元気になる」	第2回 熊本市こころの健康センター 社会復帰支援ピアサポーター 4名	13人
H28.3.7	第3回 ●「自分を大切にするセルフケア～より良いピアサポートを目指すために～」	第3回 熊本市こころの健康センター 社会復帰支援ピアサポーター 4名	12人

（８）ピアサポート講演会

ピアサポート講座受講生、講座修了者及び市民に向けて他都市で行われているピアサポート活動を紹介し、ピアサポートの普及及びリカバリーの促進を図ることを目的として実施している。（ピアサポート講座の第3回としても開催している。）

期日	内容	講師	参加人数
H27.8.7	精神障がいピアサポート講演会 講演「これからのピアサポート～ピアスタッフとして働いて～」 講演「専門職の立場からピアサポートを考える」	一般社団法人日本メンタルヘルスパピアサポート専門員研修機構 代表理事 内布 智之 氏 一般社団法人日本メンタルヘルスパピアサポート専門員研修機構 研修企画委員 武田 牧子 氏	83人

（９）精神障がい者就労支援講演会（当事者向け）

精神障がい者に対して、就労状況や支援についての情報を提供し、就労支援の推進を図ることを目的として実施している。

期日	内容	講師	参加人数
H28.2.22	講演「働きたいに向かって～強みを活かして～」 講演「熊本市障がい者自立支援協議会就労部会の取り組みについて」	Office 夢風舎 土屋 徹 氏 くまもと障がい者ワーク・ライフサポートセンター「縁」 原田 文子 氏	149 人

（１０）図書・ビデオ・DVD 貸し出し

精神保健福祉の知識を幅広く普及するため、関係機関・関係団体向けに所蔵の図書、ビデオ及びDVDの貸し出しを行っている。

種類	件数
図書	39 件
ビデオ・DVD	6 件

（１１）パンフレット等の普及啓発資料の作成・配布

種類	名称
パンフレット	「うつ病のこと、知っていますか？」 「統合失調症のこと、知っていますか？」 「思春期」 「依存症を知っていますか？」
リーフレット	「熊本市こころの健康センター」 「大切な人を亡くされた方へ」 「依存症かもしれません」 「就労準備デイ・ケア」

（１２）こころのスキルアップ講演会

市民がストレスに対処できるよう生活に取り入れられる認知行動療法を学び、うつ病予防の推進を図ることを目的として実施している。

期日	内容	講師	参加人数
H27.9.26	講話「こころを軽くする認知行動療法のコツ」	一般社団法人 認知行動療法研修開発センター 理事長 大野 裕 氏	170 人

5 組織育成

当センターでは、地域精神保健福祉活動の推進のために、地域住民による組織的活動に協力するとともに、組織の育成について、専門的立場からの助言、協力等を行っている。

(1) 支援件数

	組織育成(支援件数)
老人精神保健	
社会復帰	22
アルコール・薬物	12
思春期	
心の健康づくり	6
ひきこもり	2
自殺関連	4
犯罪被害	
その他	7
計	53

	組 織 育 成				
	患者会	家族会	断酒会	その他	計
支援件数	22	7	1	23	53

(2) 支援内容

1) 精神障がい者当事者グループ

関係組織	回数	育成・支援内容
地域移行支援ピアサポーター（ピアサポートくまもと）	12回	地域移行支援ピアサポーター連絡会打ち合わせ・意見交換会参加等
当事者活動グループ	6回	WRAP ピアサポート打ち合わせ参加等
NPO 法人熊本 DARC	2回	NPO 法人熊本 DARC 総会・NPO 法人熊本 DARC を支援する会理事会会議参加等
GA 熊本ミーティング	1回	意見交換、情報交換
精神障がい者患者会 なごみの会	1回	プログラム講師

2) 家族会

関係組織	回数	育成・支援内容
熊本市心の障がい者家族会 (むつみ会)	6回	家族教室参加・運営支援・打ち合わせ
ひきこもり家族会 楠の会	1回	九州ブロックでの講演会等の相談

3) 断酒会

関係組織	回数	育成・支援内容
NPO 法人断酒会熊本支部	1回	活動状況情報交換、意見交換

4) ボランティアグループ、その他

関係組織	回数	育成・支援内容
精神保健福祉ボランティア	6回	学習会・情報交換会・養成講座終了生の集い・ふれあいピクニックチーム会議等
熊本アディクションフォーラム実行委員会	7回	実行委員会参加・熊本アディクションフォーラム参加等
熊本アルコール関連問題学会	2回	運営委員会・理事会
熊本救急医療自傷・自殺問題対策協議会	4回	熊本救急医療自傷・自殺問題対策協議会・自死遺族ケアについての多職種ワーキング・グループ会議参加等
熊本精神科リハビリテーション研究会	4回	運営会議・理事会・総会・研究会参加等
NPO 法人 熊本ブランチャ	1回	熊本市ひきこもり支援センター「りんく」との連絡会

6 関係機関への技術支援

当センターでは、地域精神保健福祉活動の推進のため、保健所、区役所及びその他関係機関に対し、専門的立場から技術支援を行なっている。

(1) 技術指導・援助延件数

	技術指導・援助												
	老人 精神 保健	社会 復帰	アルコ ール	薬物	ギャ ンブ ル	思春期	心の健康 づくり	ひきこ もり	自殺 関連	犯罪 被害	災害	その 他	計
保健所	2	12	1	2	1	2	7	0	4	0	0	18	49
区役所	401	197	12	11	0	31	91	10	25	0	0	88	866
福祉事務所	0	2	0	0	0	0	5	0	0	0	0	3	10
医療施設	12	18	15	2	1	2	8	1	8	0	0	36	103
介護老人保健施設	2	14	0	0	0		0	2	0	0	0	0	1
障害者支援施設	0	27	1	0	2	0	6	0	2	0	0	31	69
社会福祉施設	0	17	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	18
教育関係施設	0	0	0	0	0	26	6	0	5	0	0	10	47
その他	31	19	25	22	6	22	85	291	45	0	1	90	637
計	460	292	54	37	10	83	211	302	89	0	1	277	1816

(2) 個別ケース処遇に関する技術指導・援助 延件数（再掲）

	技術指導・援助（個別ケース処遇検討 延件数）												
	老人 精神 保健	社会 復帰	アルコ ール	薬物	ギャ ンブ ル	思春期	心の健康 づくり	ひきこ もり	自殺 関連	犯罪 被害	災害	その 他	計
保健所	2	0	1	2	1	1	7	0	4	0	0	18	36
区役所	365	184	12	11	0	20	87	10	25	0	0	79	793
福祉事務所	0	2	0	0	0	0	5	0	0	0	0	3	10
医療施設	12	8	15	1	1	2	7	1	8	0	0	28	83
介護老人保健施設	11	0	0	0	0		1	0	0	0	0	1	13
障害者支援施設	0	26	1	0	2	0	6	0	2	0	0	26	63
社会福祉施設	0	17	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	18
教育関係施設	0	0	0	0	0	25	5	0	5	0	0	4	39
その他	28	8	22	16	6	21	77	285	39	0	0	81	583
計	418	245	51	30	10	69	196	296	83	0	0	240	1638

(3) 個別ケース処遇に関する検討会議 延件数(再掲)

	技術指導・援助(個別ケース処遇検討会議 参加件数)												
	老人 精神 保健	社会 復帰	アルコ ール	薬物	ギャ ンブ ル	思春期	心の健康 づくり	ひきこ もり	自殺 関連	犯罪 被害	災害	その 他	計
保健所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区役所	341	179	0	0	0	3	15	1	0	0	0	3	542
福祉事務所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療施設	10	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	19
介護老人保健施設	1	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	1
障害者支援施設	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
社会福祉施設	0	17	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	18
教育関係施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	5	0	0	0	0	0	3	264	1	0	0	1	274
計	357	201	0	0	0	3	19	265	2	0	0	8	855

(4) 関係機関事業に関する技術支援・援助 延件数(再掲)

	技術指導・援助(個別ケース処遇検討会議参加件数)												
	老人 精神 保健	社会 復帰	アルコ ール	薬物	ギャ ンブ ル	思春期	心の健康 づくり	ひきこ もり	自殺 関連	犯罪 被害	災害	その 他	計
保健所	0	12	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	13
区役所	36	13	0	0	0	11	4	0	0	0	0	9	73
福祉事務所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療施設	0	10	0	1	0	0	1	0	0	0	0	8	20
介護老人保健施設	3	0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	4
障害者支援施設	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	6
社会福祉施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教育関係施設	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	6	8
その他	3	11	3	6	0	1	8	6	6	0	1	9	54
計	42	47	3	7	0	14	15	6	6	0	1	37	178

7 自殺・うつ対策

日本の自殺者数が減少しているように、熊本市でも減少こそしているものの、いまだ100名を超える方が亡くなっている現状がある。熊本市の自殺対策の体制は、自殺対策の主管課である障がい保健福祉課（精神保健福祉室）が自殺対策連絡協議会や啓発活動等を行い、こころの健康センターが包括相談会の開催、ゲートキーパー養成講座・自殺予防研修会等の教育研修、自死遺族グループミーティング及びリーフレット・パネル作成等の普及啓発を通して、自殺の防止を図っている。

（１）くらしとこころの悩みの相談会（包括相談会）

自殺の社会的要因である、失業、倒産、多重債務問題等に対する生活相談や高齢介護、障がい者福祉に関する相談、こころの健康に関する相談を併せて行い、抱えている問題の解決を図る機会を提供することを目的として実施する。

相談内容 職種 期日	多重債務等の法律及び生活に関する相談件数	病気・こころの健康に関する相談件数		高齢者介護、障がい者福祉等に関する相談件数	多重債務等生活に関する相談件数	その他	合計 (実人数)
	弁護士	精神科医師	臨床心理士	社会福祉士	生活自立支援センター相談員		
H27	9	13	9	4	6	1	42(34)
再掲	9/18	5	8	5	3	4	25(22)
	12/11	4	5	4	1	2	17(12)

（２）若者のくらしとこころの悩み相談会（包括相談会）

自殺の社会的要因である、失業、倒産、多重債務問題等に対する生活相談や進路、就労に関する相談、こころの健康に関する相談を併せて行い、抱えている問題の解決を図る機会を提供することを目的として実施する。

相談内容 職種 期日	多重債務等の法律及び生活に関する相談件数	病気・こころの健康に関する相談件数		進路、就労に関する相談件数		ひきこもりに関する相談対応	多重債務等生活に関する相談件数	その他	合計 (実人数)
	弁護士	精神科医師	臨床心理士	くまもと若者サポートステーション相談員	ヤングハローワーク相談員	ひきこもり支援センター「りんく」相談員	生活自立支援センター相談員		
H27	4	15	14	7	5	2	1	3	51(36人)
再掲	6/19	1	6	7	4	3			21(16人)
	3/11	3	9	7	3	2	1	3	30(20人)

(3) 自死遺族グループミーティング（再掲）

期日	回数	内容	参加人数
偶数月 第3木曜日 14:00～16:00	6回	フリートーク及び相談	実11人 延12人

(4) ゲートキーパー養成講座（再掲）

期日	内容	講師	参加人数
H27.12.7, 12.8	自殺を考える人、自殺を計画する人のサインを見逃さず、危険性をはかり、安全計画をたてた上で、専門家等へつなぐ一連の対応について、実際の場面でのスキルを身につけるためのロールプレイ型実践研修	熊本市こころの健康センター 職員	45人

期日	内容	講師	参加人数
H27.8.18	熊本大学医学部看護学科学生実習にて、ゲートキーパーについて講話・リーフレットについて	熊本市こころの健康センター 職員	12人
H27.9.3	保護観察所職員向けに、自殺対策事業説明・ゲートキーパーについて説明	熊本市こころの健康センター 職員	1人
H27.10.5	医師臨床研修にて、医師向けにゲートキーパーについての講話・相談機関の紹介	熊本市こころの健康センター 職員	1人
H27.11.9	平成27年度熊本県自殺対策関係団体（熊本県理容生活衛生同業組合）向けにゲートキーパーについての講話	熊本市こころの健康センター 職員	33人
H28.1.22	子ども支援課主催「第2回妊娠に関する悩み相談員研修会」にて電話相談員向けにゲートキーパー、自殺関連電話対応について講話	熊本市こころの健康センター 職員	9人
H28.2.26	平成27年度第5回南3居宅包括連絡会にて相談員向けにストレスマネジメント、ゲートキーパーについて講話	熊本市こころの健康センター 職員	28人

(5) 自殺予防研修会（再掲）

期日	内容	講師	参加人数
H27.8.3	午前 講話「教員が知っておきたい子どもの自殺予防～自傷行為・自殺に関する理解と対応～」 講話「自殺予防教育の実践的な取り組みについて」 午後 ワークショップ	国立病院機構熊本医療センター 橋本 聡 氏 四天王寺学園小学校 阪中 順子 氏	実 116 人 (午前 114 名 午後 45 名)

(6) 高齢者自殺予防研修会（再掲）

期日	内容	講師	参加人数
H27.10.30	講話 「認知症疾患とその対応について」 「高齢者の抑うつについて」	熊本市こころの健康センター 医師 熊本大学医学部付属病院 神経精神科 藤瀬 昇 氏	43 人

(7) 認知行動療法（自殺予防）研修会（再掲）

期日	内容	講師	参加人数
H27.9.25	講話「日常業務にいかす認知行動療法～認知行動療法をベースにした面接の実際」	一般社団法人 認知行動療法研修開発センター 理事長 大野 裕 氏	131 人

(8) 電話対応スキルアップ研修会（再掲）

期日	内容	講師	参加人数
H27.6.17	講話及び演習	カウンセリングオフィス・KMJ メンタルアシスト代表 松下 弘子 氏 熊本市こころの健康センター 医師	45 人

(9) こころのスキルアップ講演会（再掲）

期日	内容	講師	参加人数
H27.9.26	講話「こころを軽くする認知行動療法のコツ」	一般社団法人 認知行動療法研修開発センター 理事長 大野 裕 氏	170 人

8 精神障がい者の社会復帰支援

精神障がい者のピアサポートや、就労支援関係機関と連携し就労支援を行なうことにより、精神障がい者の社会復帰の促進を図っている。

(1) 就労準備デイ・ケア

統合失調症等の方を対象に認知機能リハビリテーションや自己管理プログラム等を実施し、就労支援関係機関と連携を図りながら一般就労への促進を図ることを目的として実施している。また就労支援としてデイ・ケア中や終了後も就職活動の支援や就職後のフォロー等も継続して実施している。

＜対 象 者＞ 精神科医療機関に通院している統合失調症者等で、主治医がデイ・ケアの利用を必要と認める 15 歳以上の者。定員は 20 名。

＜実 施 日＞ 週 2 日（毎週火曜日・木曜日）

＜実施時間＞ 9 時～12 時（3 時間）

＜実施期間＞ 6 ヶ月（4 月・10 月に開始）※更新有 最長 1 年まで

＜利 用 料＞ 有料（健康保険適用 自立支援医療費制度利用可）

＜参加人数＞

期日	参加人数
第 6 期 H27.4.9～H27.9.17（全 45 回）	第 6 期 実 14 人 延 335 人
第 7 期 H27.10.6～H28.3.24（全 46 回）	第 7 期 実 10 人 延 270 人

＜プログラム詳細＞

プログラム	内容
認知機能リハビリテーション	「注意」「記憶」「遂行機能」等の認知機能の改善や自己理解の促進、生活・仕事と認知機能とのブリッジを目的に、パソコンソフトCOGPACK(第6期)、JCORES(第7期)を使用したトレーニング及び振り返りミーティング「言語グループ」を実施。
自己管理プログラム	自分自身に目を向け、心身の状態に応じて元気を保つ、また元気を取り戻していくための方法について、WRAPを活用して、意見を出し合いながら考え、整理していくことを目的とした自己管理プログラムを実施。
心理教育	自分自身の病気や障がいの理解を深め、上手に付き合いながら生活・仕事をしていくために、「病気の理解」「服薬管理」「精神障がいの特性」等の心理教育を実施。

生活・就労プログラム	社会資源についてのプログラムや、人間関係を円滑にし、働き続けるために役立つ「コミュニケーション」、「ビジネスマナー」、さらに“働く”について考える「就労ミーティング」を実施。
就職準備プログラム	自分に適した働き方を考え、整理する「就労希望条件の整理」や、企業への応募時に必要となる履歴書の見本を作成する「履歴書作成練習」、また面接場面を想定、実践的に練習する「面接練習」を実施。
働くための情報取得	働くために役立つ情報を学び、安心して就職活動や就労継続ができるよう、ハローワークへの求人検索や、障がい者就業・生活支援センター、障害者職業センター等の就労支援機関による就労講座を実施。

○認知機能検査結果(第6期・第7期)

認知機能リハビリテーション前後における認知機能について、Brief Assessment of Cognition in Schizophrenia の日本語版 (BACS-J) にて、検査を実施。

なお、z-score は兼田康宏氏らが作成した BACS-J のデータを参考に、各年代の健常者平均値を 0 として、デイ・ケア利用者の検査結果を z-score 化し、リハビリテーション施行前後を比較することで認知機能リハビリテーションの効果を検討している。

<第6期>

結果 認知機能リハ前後の個別の認知機能の比較 第6期												
	BACS-J(数値は年齢階級別 Z-score)											
	言語性記憶		ワーキングメモリ		運動機能		言語流暢性		注意と処理速度		遂行機能	
	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
23歳・女性	-1.36	0	-1.33	-0.56	-0.28	-0.45	-0.9	-1.01	-0.26	-0.98	0.09	0.09
30歳・女性	-1.20	0.84	-1.64	-1.64	-2.19	-1.77	-0.11	-0.38	-0.23	0.13	-0.95	-0.05
30歳・女性	-1.20	1.20	1.14	2.53	-1.77	-1.77	-0.29	0.16	0.67	0.40	-0.50	0.41
31歳・女性	-1.81	0	-1.64	-0.25	-1.57	-1.36	-2.38	-1.65	-1.32	-0.86	-0.50	-0.50
35歳・女性	-2.65	-1.69	-2.19	-1.92	-0.12	-1.36	-2.11	-0.93	-1.23	-1.05	-0.95	-3.23
39歳・女性	-0.60	-3.25	-2.19	-1.92	-3.22	-4.66	-1.65	-1.47	-2.4	-2.58	-1.41	-0.5
43歳・女性	-0.91	-0.58	-1.14	0.29	-1.33	-1.02	-1.08	-0.57	-1.33	-0.78	-1.75	-0.68
23歳・女性	-1.36	0	-1.33	-0.56	-0.28	-0.45	-0.9	-1.01	-0.26	-0.98	0.09	0.09
改善 低下 変化なし												

<第7期>

結果 認知機能リハ前後の個別の認知機能の比較 第7期

	BACS-J(数値は年齢階級別 Z-score)											
	言語性記憶		ワーキングメモリ		運動機能		言語流暢性		注意と処理速度		遂行機能	
	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
31歳・男性	1.08	1.20	1.69	1.14	-1.15	-0.33	0.53	1.07	-0.59	0.76	0.41	0.41
31歳・女性	-0.36	-0.24	0.31	-0.81	-1.98	-0.54	-1.84	-1.11	-0.68	-1.5	0.41	0.41
37歳・男性	-2.17	-1.93	-1.36	-0.81	-3.84	-4.25	-0.38	-0.11	-2.22	-2.4	-3.68	-1.86
40歳・女性	-2.47	-3.13	0.57	0.29	-1.95	-0.86	-1.75	-1.58	-1.88	-1.15	0.04	0.75
42歳・男性	-1.47	-0.91	-0.57	-0.86	-0.23	-1.02	-0.4	-0.82	-1.51	-1.15	-1.04	0.04
43歳・女性	-1.36	-0.47	0	-0.29	-2.42	-1.64	-1.58	-0.48	-1.97	-0.96	-0.32	0.04
44歳・男性	-0.58	-0.36	0.29	0.29	-1.02	-0.7	-0.57	-1.42	-0.78	-0.96	-0.68	-1.39
	改善				低下				変化なし			

<デイ・ケア利用者状況>

デイ・ケア利用者状況(H24年～H27年度)

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期
申込者	14名	12名	17名	14名	10名	14名	10名
修了者	8名	8名	11名	9名	6名	8名	8名
平均年齢	36.2歳	37.5歳	35.9歳	32.4歳	37.1歳	32.7歳	34.8歳
一般就労	1名	2名	3名	1名	2名	2名	4名
A型利用	2名	5名	3名	4名	1名	4名	1名
就職者合計 (A型含む)	3名	7名	6名	5名	3名	6名	5名

（２）デイ・ケア修了生の集い・就労ミーティング

デイ・ケアの修了者を対象に、生活支援・就労支援を目的にミーティングを実施（修了生の集い：デイ・ケア修了～6ヶ月、就労ミーティング：デイ・ケア修了～）。デイ・ケア終了後の生活や自身の体調等を振り返る。また就労について話し合いながら、働くことへの意識を持ってもらう。

期日	内容	参加人数
第5期生 H27.4.1 ～ H27.9.16	●デイ・ケア修了生の集い 第1・3水曜に実施(10:00～11:00) 自身の生活や体調等の振り返り、就労について話し合いを実施。	第5期 延 13 人
第6期生 H27.10.7 ～ H28.3.16		第6期 延 45 人

期日	内容	参加人数
H27.4.15 ～ H27.3.16	●就労ミーティング 第3水曜に実施(11:00～12:00) 修了者全員を対象に、就労・就労継続についての話し合いを実施。	延 80 人

（３）精神障がい者就労支援講演会（再掲）

期日	内容	講師	参加人数
H28.2.22	講演「働きたいに向かって～強みを活かして～」 講演「熊本市障がい者自立支援協議会就労部会の取り組みについて」	Office 夢風舎 土屋 徹 氏 くまもと障がい者ワーク・ライフサポートセンター「縁」 原田 文子 氏	149 人

（４）精神障がい者就労支援ネットワーク連絡会（再掲）

期日	内容	委員
H27.7.8	○こころの健康センター就労準備デイ・ケア報告 ○意見交換	9 人
H28.3.9	○認知機能リハビリテーション報告 ○意見交換	8 人

(5) ピアサポート相談

精神障がい者の社会復帰の促進を図ることを目的として、精神疾患や障がい等の経験を通してピアサポートを行うためのピアサポーターを平成 24 年 9 月から 4 名雇用し、相談対応等を行っている。

1) 相談件数

性別	相談延件数	実人数
男	47	12
女	64	16
計	111	28

2) 講話等

期日	内容	参加者数
H27.4.22	精神保健福祉ボランティア修了生の集い 「体験談とボランティアの方々に望むこと」	8 名
H27.5.15	精神保健福祉担当者研修会 「体験談発表」	26 名
H27.6.1	第 1 回ピアサポートの集い 「“リカバリーへの道のり” ～それぞれの想いを語る～」	15 名
H27.7.15	児童相談所主催 人権研修 「ピアサポートの説明」 「体験談発表」	25 名
H27.7.29	熊本保健科学大学 リハビリテーション学科 生活機能療法学 3 年 「精神機能作業療法Ⅲ」 講義「こころの健康センターのピアサポート」 「体験談発表」	46 名
H27.7.31	ピアサポート講座 第 2 回 熊本市におけるピアサポート～実践報告とピアへの思い～ 「こころの健康センターにおいてのピアサポート活動」	17 名
H27.8.5	思春期精神保健福祉研修会 体験談発表「発達障がいの当事者の立場から」	189 名
H28.8.18	看護学生見学実習 「体験談発表」	12 名
H27.9.9	西区精神保健ネットワーク連絡会 「こころの健康センターのピアサポートについて」	40 名

H27.10.5	福岡市「こころの病のピアサポート講座」シンポジウム 「ピアサポート相談室『よんなっせ』と共に」	64 名
H27.10.21	精神保健福祉ボランティア養成講座 「体験談発表」	11 名
H27.11.6	第 2 回ピアサポートの集い 「いいところさがしで元気になる」	13 名
H28.1.27	精神保健福祉ボランティア修了生の集い 「体験談発表」	14 名
H28.2.27	第 57 回肥後医育塾公開セミナー 体験談発表「疾患と共に歩むこと～私のストレスケア～」	272 名
H28.3.7	第 3 回ピアサポートの集い 「自分を大切にするセルフケア～より良いピアサポートを目指すために～」	12 名

9 ひきこもり対策推進事業

ひきこもりの相談対応等の支援の充実をはかるために、平成 26 年 10 月よりひきこもり地域支援センターを設置し、支援を行っている。

(1) ひきこもり支援センター 「りんく」

平成 26 年 10 月より、熊本市にお住まいのひきこもり状態にある本人及びその家族等の第一次相談窓口として、ひきこもり対策推進事業における「ひきこもり地域支援センター」として、ひきこもり支援センター「りんく」を設置している。実施主体は熊本市であるが、事業運営については NPO 法人に委託を行っている。

(2) センター概要（平成 28 年 3 月 31 日時点）

開所日：平日 8：30～17：15

場所：熊本県熊本市中央区大江 5 丁目 1 番 1 号

熊本市総合保健福祉センター（ウェルパルクまもと）3 階

対象者：熊本市内在住のひきこもり状態の方及びその家族等

スタッフ：専属 3 名（精神保健福祉士、臨床心理士）

非常勤 4 名（精神保健福祉士、臨床心理士等）交代で勤務

運営主体：NPO 法人お～さあ

(3) 事業内容

1) 相談事業

来所（区役所での出張来所相談を含む）、電話、メール等で相談対応をしている。必要に応じて訪問を行っている。

(ア) 電話相談

		10 代	20 代	30 代	40 代	50 代以上	年齢不詳	計
実 件数	男(新規)	56(48)	52(45)	40(33)	18(14)	7(5)	16(16)	189(161)
	女(新規)	19(15)	25(19)	17(13)	7(7)	4(4)	11(11)	83(69)
継続 件数	男	107	220	135	146	47	8	663
	女	49	82	66	18	3	1	219
計		231	379	258	189	61	36	1154

※実件数は、今年度初回相談件数と（センター新規利用件数）を合算したもの。

		10 代	20 代	30 代	40 代	50 代以上	年齢不詳	計
男	本人	3	53	42	21	8	6	133
	本人以外	160	219	133	143	46	18	719
女	本人	6	29	32	11	1	11	90
	本人以外	62	78	51	14	6	1	212
計		231	379	258	189	61	36	1154

(イ) メール相談（インターネット、携帯電話）

		10代	20代	30代	40代	50代以上	年齢不詳	計
実 件数	男(新規)	2(0)	8(0)	5(0)	1(0)		2(2)	18(2)
	女(新規)	2(0)	3(1)	4(1)	1(0)	1(0)		11(2)
継続 件数	男	4	53	6				63
	女	9	35	17	9	4		74
計		17	99	32	11	5	2	166

		10代	20代	30代	40代	50代以上	年齢不詳	計
男	本人	2	51	6			2	61
	本人以外	4	10	5	1			20
女	本人		31	16	10			57
	本人以外	11	7	5		5		28
計		17	99	32	11	5	2	166

(ウ) 来所相談（出張来所相談含む）

		10代	20代	30代	40代	50代以上	年齢不詳	計
実 件数	男(新規)	33(8)	45(12)	35(5)	15(8)	9(7)	1(1)	138(41)
	女(新規)	10(4)	25(4)	15(2)	4(2)	1(0)	2(2)	57(14)
継続 件数	男	72	142	148	39	7		408
	女	33	102	55	23	6		219
計		148	314	253	81	23	3	822

		10代	20代	30代	40代	50代以上	年齢不詳	計
男	本人	10	102	91	17	2		222
	本人以外	95	85	92	37	14	1	324
女	本人	23	82	41	16		2	164
	本人以外	20	45	29	11	7		112
計		148	314	253	81	23	3	822

(再掲)

	10代	20代	30代	40代	50代以上	年齢不詳	計
東区	1	13			1		15
西区		6	2				8
南区			3	2	1		6
北区	3			6	5		14
計	4	19	5	8	7		43

(エ) 訪問相談

		10 代	20 代	30 代	40 代	50 代以上	年齢不詳	計
実 件数	男(新規)	4(0)	6(2)	3(0)	3(0)	1(0)		17(2)
	女(新規)	3(0)	2(0)	1(0)				6(0)
継続 件数	男	36	28	22	29	5		120
	女	3	13	9				25
計		46	49	35	32	6		168

2) 関係機関との連携

(ア) ひきこもり支援機関連絡協議会

ひきこもり状態にある本人及びその家族が切れ目なく適切な支援や情報等と継続的につながることができるよう、官民協働による重層的かつ横断的なネットワークを構築することを目的に実施している。(年 2 回開催)

期日	内容	参加機関数	参加人数
H27.7.29	センター概要説明、事業計画説明、事業実績報告、集団プログラム及び講演会・研修会説明、意見交換	28	33 人
H28.1.27	大学におけるひきこもり学生への支援の現状と課題、全体協議、意見交換	26	29 人

3) 普及啓発

(ア) リーフレット作成・配布

「ひきこもり ひとりで悩まないで」、「熊本市ひきこもり支援センター りんく」を作成し配布している。

(イ) 講演会

市民・支援者向けに「ひきこもり」に関する理解を深めるため、講演会を開催している。

期日	内容	講師	参加人数
H27.8.9	講演「ひきこもりの理解と支援」	くまもと青明病院 医師 井形 るり子 氏	53 人
H28.2.21	講演「アディクション（嗜癖）」	向陽台病院 医師 横田 周三 氏	24 人

(ウ) 研修会

市民・支援者向けに「ひきこもり」に関する理解を深め、対応について学ぶため、研修会を開催している。

期日	内容	講師	参加人数
H27.4.20	ひきこもりからの自立	ひきこもり経験者 2 名	14 人
H27.5.18	不登校・ひきこもりの生活支援	こども L.E.C.センター 副主任児童指導員 松本 祐一郎 氏	10 人
H27.6.15	不登校・ひきこもり生徒との関わり	スクールソーシャルワーカー 黒田 信子 氏	4 人
H27.7.13	発達障がい支援の実際	熊本市発達障がい者支援センター みなわ 長濱 朋二 氏、橋本 翔一郎 氏	22 人
H27.8.17	不登校・ひきこもり経験者と働くこと	熊本県中小企業家同友会 副代表理事 吉田 周生 氏	8 人
H27.9.28	中年期以降のひきこもりを支える制度・サービス	熊本市生活自立支援センター 相談員 檜物 みき子 氏	11 人
H27.10.19	ひきこもりからの自立	ひきこもり経験者 1 名	13 人
H27.11.16	ひきこもる子どもとの関係づくりのコツ	こども L.E.C.センター 副主任児童指導員 松本 祐一郎 氏	9 人
H27.12.21	家庭でもない学校でもない場へのつなぎ方	スクールソーシャルワーカー 黒田 信子 氏	6 人
H28.1.18	こだわりの活かし方	熊本市発達障がい者支援センター みなわ 橋本 翔一郎 氏	6 人
H28.2.15	ひきこもり経験者のキャリア形成支援について	くまもと若者サポートステーション キャリア・コンサルタント 草野 幸栄子 氏	12 人
H28.3.28	ひきこもりの地域における持ち場(役割)の創り方	NPO 法人おーさあ 地域の縁がわ担当 池上 香織 氏	12 人

4) ひきこもりサポーター養成

ひきこもり状態の本人や家族等への支援に関心のある方をサポーターとして養成する。

(ア) 一般向け ひきこもりサポーター研修及び分科会

家族や一般の方を対象に、全4回の研修を2期実施している。1期4回に全て出席するとサポーターとして認定している。また、研修受講者を対象に、さらに知識や理解を深めてもらうため、選択式の研修分科会を実施している。

(研修会)

期日	内容	講師	参加人数
第1期 H27.7.7 H27.8.21	○ひきこもり支援センターの活動状況 ○アサーション・トレーニング ○サポーターの心構えと準備 ○サポーターのメンタルケア	「りんく」職員 ひきこもり経験者の親2名	実16人
第2期 H28.2.5 H28.2.12	○親の体験から語るサポーターの姿勢 ○家族及び本人のロールプレイ ○本人及び家族への傾聴訓練とひきこもり疑似体験ワーク ○研修全体の振り返り、ひきこもりサポーター認定書発行		認定者 12人

(研修分科会)

期日	内容	講師	参加人数
H27.9.18	アサーション・トレーニング・ワーク	「りんく」職員	5人
	うつ病、統合失調症、心身症発達障がい等の理解	弓削病院 医師 鍋島 賢大 氏	5人
H27.9.25	「成功・失敗事例」、「長期困難事例」の対応ロールプレイ	「りんく」職員	7人
	中間的就労で働くこと	ひきこもり経験者2名	7人
H28.2.26	アサーション・トレーニング・ワーク	「りんく」職員	2人
	中間的就労で働くこと	ひきこもり経験者2名	2人
H28.3.4	「成功・失敗事例」、「長期困難事例」の対応ロールプレイ	「りんく」職員	3人
	うつ病、統合失調症、心身症発達障がい等の理解	熊本大学医学部附属病院 医師 城野 匡 氏	3人

(イ) ピアサポーター養成研修

ひきこもり状態の本人を対象に、4回の研修を実施し、4回を受講するとサポーターとして認定している。研修日程については、受講者と日程調整を行い決定している。

期日	内容	講師	参加人数
H27.5.18	①オリエンテーション、体験発表の練習	「りんく」職員	実4人
H27.5.25	②居場所・社会参加への付き合い方		
H27.12.7	③当事者へのピアカウンセリングの仕方		認定者 2人
H27.12.14	④まとめ、ピアサポートプラン作成、ピアサポーター認定書発行		
H28.2.22			
H28.2.29			
H28.3.7			
H28.3.14			

5) その他のひきこもり対策推進事業

(ア) ひきこもり家族教室

同じ悩みを抱えた家族同士が自由な雰囲気での話し合い、当事者への理解を深める場として家族教室を実施している。(月1回 13:30～15:30)

平成27年度実績 参加者実人数 52人 のべ人数 133人

期日	内容	講師	参加人数
H27.4.8	○ひきこもりとは ひきこもりのについての講話	向陽台病院 医師 横田 周三 氏	7人
H27.5.13	○気持ちの感じ取り方、表現の仕方のグループワーク CRAFT、ポジティブなコミュニケーションの講話、親子役でロールプレイ	「りんく」職員	8人
H27.6.10	○本人の気持ちの理解 ひきこもり経験者2名の体験談	「りんく」職員 ひきこもり経験者2名	14人
H27.7.8	○利用できるサービス 利用できるサービスの説明等	「りんく」職員	10人
H27.8.12	○家族の気持ち ひきこもり経験者の親の講話	「りんく」職員 ひきこもり経験者の親2名	16人
H27.9.9	○座談会 家族同士の情報交換、互助的な支え合いの場の提供	「りんく」職員	11人
H27.10.14	○ひきこもりとは ひきこもりと関連した精神疾患の講話、医療サービスの利用方法	弓削病院 医師 西山 浩介 氏	11人

H27.11.11	○本人への関わり方のコツ ひきこもり状態の子どもとの関係づくりと子どもを褒める実践練習	「りんく」職員	16 人
H27.12.9	○本人の気持ちの理解 ひきこもり経験者の体験談	「りんく」職員 ひきこもり経験者 2 名	15 人
H28.1.13	○利用できるサービスについて ニーズに応じたサービスの相談窓口の紹介、グループワーク	「りんく」職員	5 人
H28.2.10	○家族の気持ち ひきこもり経験者の親の体験談	「りんく」職員 ひきこもり経験者の親	14 人
H28.3.9	○座談会 家族同士の情報交換、互助的な支え合いの場の提供	「りんく」職員	6 人

(イ) ひきこもり当事者プログラム

ひきこもり状態の方が安心して過ごせる場として、交流や社会性向上を目的に各種活動を実施している。(週 2 回 14:00～15:30)

期日	内容	講師	参加人数
H27.4.2 ～ H28.3.29 全 97 回	コミュニケーションプログラム DVD 観賞 創作活動 表現プログラム 運動プログラム 調理プログラム 外出プログラム フォーカシング 等	「りんく」職員	実 36 人 延 408 人

(ウ) 組織育成支援

親の会主催の会議出席や当事者による自助グループ育成支援等を必要に応じて行う。

(エ) 出張型支援

求めに応じて、区役所や公民館等で、家族教室及び本人向けプログラムを行う。

10 調査研究

地域精神保健福祉活動の推進及び精神障がい者の社会復帰の支援に資するために、専門的立場から調査研究を行っている。

(1) 文部科学省 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）

「精神障がい者への就労現場で使用可能な評価法の開発と基礎的資料の整備」

「精神障害をもつ人を対象とした就労場面における社会的スキル尺度および認知機能尺度の開発」

研究協力 熊本市こころの健康センター 就労準備デイ・ケア

研究要旨

平成30年4月をめどに、企業における雇用義務の対象が精神障がい者まで範囲を拡大する見通しである。障がいをもつ人の雇用状況は大きく変化する。その中で、就労支援をのぞむ当事者のニーズの高まりが予想され、その効果検討を行うための評価法が必要となる。しかし、要素的認知機能と社会的認知については、統制された実験空間ないし検査場面で利用可能な評価法はあるものの、地域の支援機関や企業で利用可能な質問紙形式の評価法はなく、地域で就労支援を展開する中では、簡易な質問紙形式の評価法のニーズが高まることが予想される。

当センターの就労準備デイ・ケア利用者を対象に、研究目的と調査内容についての説明を行い、協力同意を得た。調査→再調査（3ヵ月後）→アウトカム調査（12ヵ月後）を行い、個人情報をもたない形式でのデータ提供を行い、研究に協力している。

(2) 「就労準備デイ・ケアについて 認知機能リハビリテーションの効果検討」

研究者 熊本市こころの健康センター 就労準備デイ・ケア担当

研究要旨

国立精神・神経医療研究センターの研究事業に協力する形で開始した就労準備デイ・ケアについては、研究事業は終了したが、その研究事業の報告の中で、支援モデルに一定の効果が認められた。本市においては、認知機能リハビリテーションと個別就労支援を組み合わせた支援モデルを継続して活用し、支援を行いながら効果検討を行っている。

平成 24 年度開始時から平成 27 年度までのデイ・ケア利用者に対して、認知機能リハビリテーション(①PC ソフトを使用したトレーニング、②振り返りや仕事・生活との関連を考えるグループミーティング)を 3 ヶ月間実施し、BACS-J にて認知機能リハ前後の認知機能を評価した結果をまとめた。対象者(認知機能リハビリテーションプログラム修了者)は 45 名であるが、結果は全体的に改善傾向であった。

また、平成 27 年度後期より、認知機能リハビリテーションに新たなソフトを導入し、聴覚性の課題や認知機能を複合的に使う総合的課題に対応できるようにしている。今後効果検討を行っていく予定である。

就労状況については 58 名中の 15 名が一般就労につながり、そのうち 13 名が 6 ヶ月以上継続した。また、福祉的就労を含めると 42 名が就労へとつながった。

熊本市こころの健康センター 就労準備デイ・ケアについて

熊本市こころの健康センター

就労準備デイ・ケア

<目的>

統合失調症の方に対し、医学的な基盤に立つリハビリテーションプログラムを実施することにより、一般就労(パートも含む)への促進を図る。

対 象 者: 統合失調症により通院中の方で、一般就労を希望する方(主治医の紹介状が必要)

利用日時: 毎週火曜・木曜 9:00~12:00

利用期間: 6ヶ月(4月・10月に開始)

更新あり 最長1年まで利用可

利 用 料: 有料

就労準備デイ・ケアの特徴

➤ 認知機能リハビリテーション

➤ 就労支援

「認知機能」は働くうえで必要かつ重要な機能。
統合失調症では認知機能の障害がみられる。



近年、認知機能の改善に焦点を当てた治療の重要性が認識されてきている。

また、就労支援に認知機能リハビリテーションを組み合わせることで、就労への効果がみられる。

認知機能リハビリテーション

当センターでは・・・

- ① PCソフトCOGPACK(コグパック)日本語版を使用した認知機能改善トレーニング
⇒ 毎週2回、約60分実施(全24回)

※COGPACK日本語版は国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所が開発中であり、研究事業に参加することを条件に使用許可を受けている。

- ② 課題を通し、自己の特徴の振り返りや、仕事・生活とのブリッジングを行う「言語グループ」
⇒ 毎週1回、約90分実施(全12回)

認知機能リハは約3ヶ月間集中的に実施

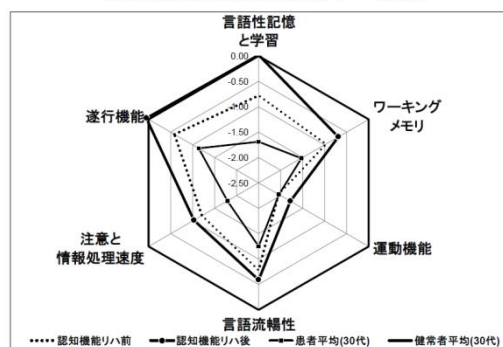
認知機能の検査

「統合失調症認知機能簡易評価尺度日本語版（以下BACS-J）」を使用。

6つの検査で構成。所要時間は30分程度

- ・言語性記憶・・・「言語性記憶」
- ・数字順列課題・・・「ワーキングメモリ」
- ・トークン運動課題・・・「運動機能」
- ・意味流暢性、文字流暢性・・・「言語流暢性」
- ・符号課題・・・「注意と処理速度」
- ・ロンドン等検査・・・「遂行機能」

認知機能リハビリテーション前後の 認知機能の比較（第1～6期）



※認知機能リハプログラム終了者45名の全体平均

就労準備デイ・ケアの新たな取り組み

第1期～第6期までの認知機能リハビリテーション
⇒COGPACK日本語版を使用



聴覚性の機能にもアプローチができ、
様々な認知機能を複合的に使う総合課題
や本人の力に合わせ難易度を調整できる
「J-CORES」を第7期から新たに導入し、
認知機能リハビリテーションを実施。

J-CORES

- ・ Japanese COgnitive REhabilitation Softwareの略
- ・ 統合失調症の認知機能リハビリソフトとして開発
- ・ 就労支援とセットで行うことで効果を発揮
- ・ 「注意」「処理速度」「言語性記憶」「作業記憶」「流暢性」「遂行機能」の6つの領域の課題と総合的な課題がある



1 1 自立支援医療費（精神通院医療）及び精神障害者保健福祉手帳の判定

当センターでは、精神保健及び精神障害者の福祉に関する法律に基づき、自立支援医療（精神通院医療）の支給認定及び精神障害者保健福祉手帳の申請に対する判定業務を行っている。

（１）自立支援医療費（精神通院）

年度	申請件数	承認	不承認	受給者数
H25	8,205	8,201	4	11,086
H26	5,542	5,534	8	12,154
H27	8,690	8,683	7	12,999

（２）精神障害者保健福祉手帳

1）診断書による申請件数

年度	新規申請	更新申請	等級変更	計
H25	625	1,244	21	1,890
H26	613	1,329	22	1,964
H27	648	1,528	33	2,209

※取り下げを除く。

2）診断書による申請の判定結果

年度	1 級	2 級	3 級	保留	不承認	計
H25	275	1,212	353	27	23	1,890
H26	279	1,221	401	24	39	1,964
H27	282	1,268	561	48	50	2,209

※保留については、最終的に 1 ～ 3 級若しくは不承認と認定されている。

3）年金証書による申請件数

年度	新規申請	更新申請	等級変更	計
H25	174	1,532	15	1,721
H26	207	1,727	12	1,946
H27	172	1,724	15	1,911

※取り下げを除く。

4) 年金証書による申請の認定件数

年度	1 級	2 級	3 級	保留	不承認	計
H25	323	1,243	126	5	24	1,721
H26	326	1,439	146	9	26	1,946
H27	291	1,445	151	6	18	1,911

※保留については、年金事務所等の照会先からの回答が、設定した期限に間に合わない場合等を含む。

5) 精神障害者保健福祉手帳所持者数

年度	1 級	2 級	3 級	計
H25	1,186	4,973	829	6,988
H26	1,171	5,207	1,039	7,417
H27	1,158	5,485	1,285	7,928

12 精神医療審査会の審査に関する事務

当センターでは、精神保健及び精神障害者の福祉に関する法律に基づき、精神医療審査会の開催事務、審査遂行上必要な調査及びその他審査会の運営に関する事務を行っている。

(1) 定期の報告等の審査件数

年度	措置定期	医保定期	医保入院	計
H25	27	893	1,775	2,695
H26	30	839	2,034	2,903
H27	31	751	2,102	2,884

(2) 退院等請求（請求件数、審査結果の内訳）

年度	退院請求			処遇改善請求		
	審査件数	取り下げ・終了	計	審査件数	取り下げ・終了	計
H25	13	22	35	6	5	11
H26	25	10	35	3	3	6
H27	22	12	34	4	5	9

年度	退院請求				処遇改善請求		
	入院不可	形態変更	入院継続	計	処遇不適	処遇適当	計
H25	0	0	13	13	0	6	6
H26	0	2	23	25	0	3	3
H27	0	1	21	22	0	4	4

(3) 相談等件数

年度	電話相談件数	電話延件数	請求書送付件数	請求の電話受理件数
H25	143	385	65	3
H26	156	447	64	1
H27	123	309	61	1

(4) 代理人・家族等による請求

年度	代理人	家族等	計
H25	1		1
H26	4		4
H27	8	2	10

平成 27 年度 熊本市こころの健康センター所報
平成 29 年 1 月 30 日 発行

発行元

熊本市こころの健康センター

〒862-0971

熊本市中央区大江 5 丁目 1-1 ウェルパルクまもと 3 階

TEL:096-366-1171 FAX:096-366-1173